

夢がある。

技術がある。

**未****来**ができる。

**OKURA** REPORT

# 第103期 株主通信

2022年1月1日～2022年12月31日



**大倉工業株式会社**

証券コード 4221

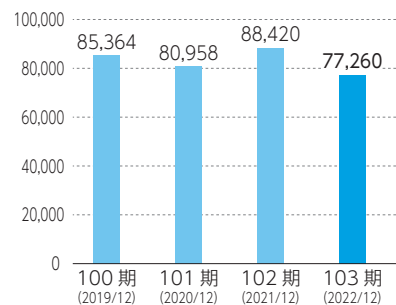
株主の皆様へ



代表取締役  
社長執行役員  
神田 進

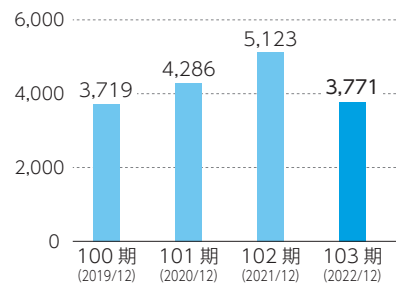
売上高の推移

(単位:百万円)



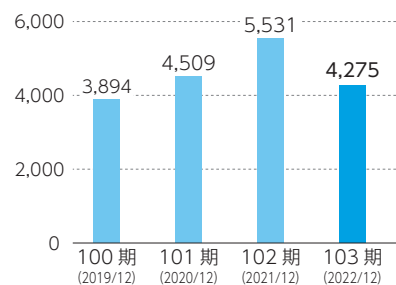
営業利益の推移

(単位:百万円)

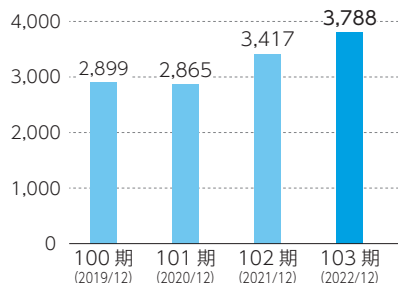


経常利益の推移

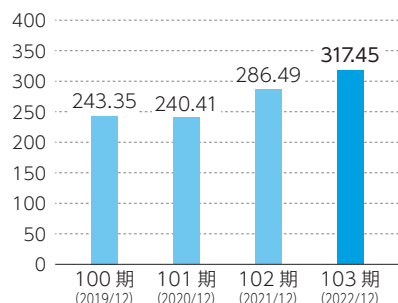
(単位:百万円)



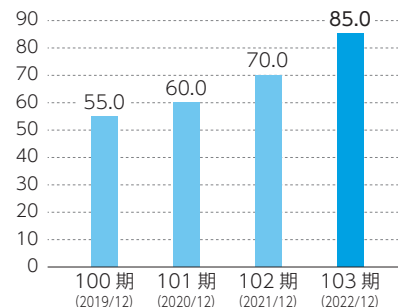
親会社株主に帰属する当期純利益の推移 (単位:百万円)



1株当たり当期純利益の推移 (単位:円)



1株当たり配当額の推移 (単位:円)



※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

※2022年は「収益認識に関する会計基準」を適用した数値です。

**株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り  
厚くお礼申し上げます。  
「第103期株主通信」を皆様にお届けするにあたり、  
一言ごあいさつ申し上げます。**

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大に加え、ロシアのウクライナ侵攻などによる資源価格の高騰や円安の進行に伴いコストが増加しているものの、国内の経済活動正常化の進展に伴う個人消費の増加の影響などにより、緩やかな回復基調で推移しました。先行きにつきましては、ウクライナ情勢や新型コロナウイルスの影響、物価の上昇によるコスト増加など、今後を見通すことが依然として困難であり、不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、合成樹脂事業において原材料価格等のコスト上昇分について製品価格への転嫁が進んだこと及び建材事業においてパーティクルボード製品の販売数量が増加したことなどにより、当連結会計年度の売上高は772億6千万円(前年同期は884億2千万円)となり、収益認識会計基準適用前の売上高では前年同期比で増加しました。

利益面では、売上高は増加したものの、各事業において原材料価格上昇や電力・光熱費用の増加の影響を受けたことなどにより、営業利益は37億7千1百万円(前年同期は51億2千3百万円)、経常利益は42億7千5百万円(前年同期は55億3千1百万円)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、合成樹脂事業において減損損失を計上したものの、固定資産の譲渡に伴う特別利益が発生したことなどにより、37億8千8百万円(前年同期は34億1千7百万円)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は195億3千万円減少し、営業利益は4千2百万円減少しました。

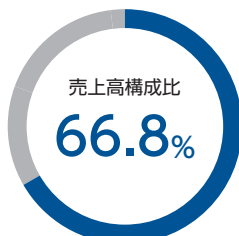
当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営上の最重要課題の一つと位置付け、継続的な安定配当を基本に、業績や財務健全性のバランス等も総合的に勘案しつつ、配当水準の引き上げに努めることを基本方針としております。このような方針のもと、第103期の期末配当金につきましては1株当たり75円と予定しておりましたが、2022年12月期の業績を踏まえ、株主還元の充実を図るため10円増配し、1株当たり85円といたしました。

引き続き、資源価格の高騰や、円安の進行など日本経済への深刻な影響は未だ不透明なままですが、当社グループでは、この事態に的確な施策を講じながら対処していく所存ですので、株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2023年3月

## 事業別概況(連結)

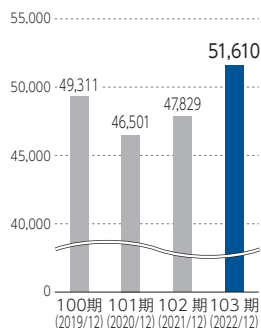
### 合成樹脂事業



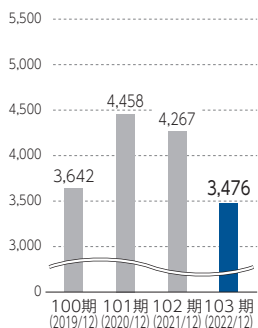
食品向けシュリンクフィルムや一般包装用フィルムの販売数量が減少し、工業用プロセスフィルムにおいても世界的な半導体不足の影響で販売数量が減少しました。原材料価格等のコスト上昇分について、製品価格への転嫁が進んだため、売上高は516億1千万円(前年同期は478億2千9百万円)となり、収益認識会計基準適用前の売上高は前年同期比で増加しました。しかしながら、営業利益は製品価格への転嫁を進めたものの、度重なる原材料価格の上昇分を吸収できなかったため、34億7千6百万円(前年同期は42億6千7百万円)となりました。

なお、収益認識会計基準の適用により、売上高は6千8百万円減少しております。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



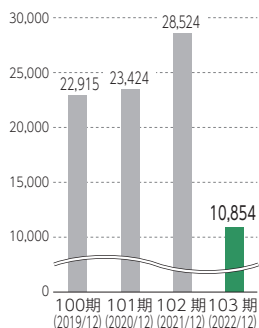
### 新規材料事業



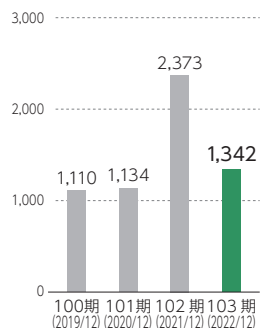
大型液晶パネル向け光学フィルム製品が市場の急激な悪化による在庫調整の影響を受けたものの、車載用途向けなどの機能性材料フィルムが堅調に推移したことから、売上高は108億5千4百万円(前年同期は285億2千4百万円)となりました。営業利益は、精密塗工事業を中心に生産性の向上に取り組んだものの、電力・光熱費用の増加と光学フィルム製品の販売量減少により13億4千2百万円(前年同期は23億7千3百万円)となりました。

なお、収益認識会計基準の適用により、売上高は192億6千4百万円減少しております。

売上高の推移 (単位:百万円)

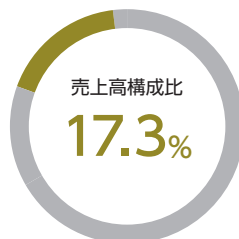


営業利益の推移 (単位:百万円)





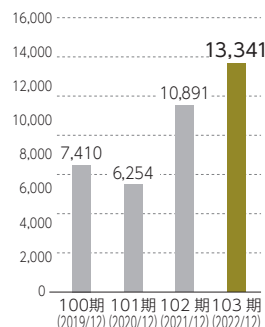
## 建材事業



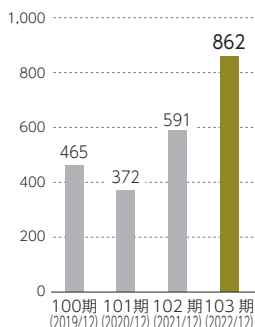
新規顧客獲得や既存顧客への増販によりパーティクルボード製品の販売数量が増加したことに加えて、前年から販売を開始した環境貢献型枠「木守®」の拡販に努めたことなどにより、売上高は133億4千1百万円(前年同期は108億9千1百万円)となり、収益認識会計基準適用前の売上高は前年同期比で増加しました。営業利益については引き続き原材料価格高騰の影響を受けているものの、売上高の増加及びパーティクルボードの安定生産を継続したことなどにより、8億6千2百万円(前年同期は5億9千1百万円)となりました。

なお、収益認識会計基準の適用により、売上高は1億7千8百万円減少しております。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



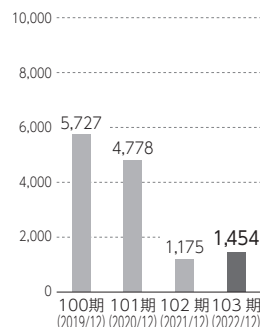
## その他



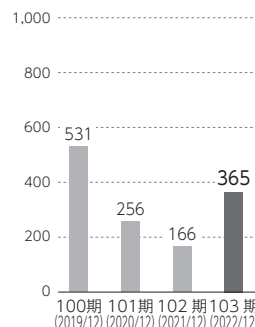
ホテル事業において前期より引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、県民割等の地域観光事業支援の効果で一部回復したことや情報処理システム開発事業が堅調に推移したことにより、その他全体の売上高は14億5千4百万円(前年同期は11億7千5百万円)となり、収益認識会計基準適用前の売上高は前年同期比で増加しました。営業利益は売上高の増加と固定費の削減などにより、3億6千5百万円(前年同期は1億6千6百万円)となりました。

なお、収益認識会計基準の適用により、売上高は1千9百万円減少しております。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

※2022年は「収益認識に関する会計基準」を適用した数値です。

※2021年から、㈱オークラハウス、㈱オークラプレカットシステムの売上高及び営業利益を、その他関連事業から建材事業に変更しております。

# 第103期連結財務諸表

## 連結貸借対照表の要旨

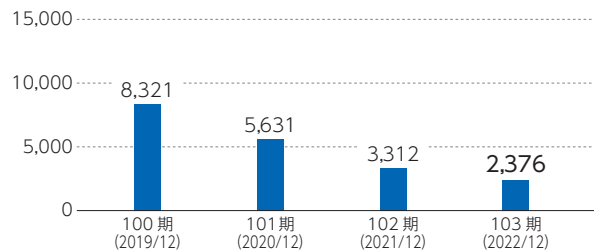
(単位: 百万円)

| 科 目       | 102期末<br>2021年12月31日現在 | 103期末<br>2022年12月31日現在 |
|-----------|------------------------|------------------------|
| 資産の部      |                        |                        |
| 流動資産      | 46,959                 | 50,640                 |
| 現金及び預金    | 9,765                  | 8,448                  |
| 受取手形      | 4,271                  | 3,324                  |
| 売掛金       | 16,823                 | 17,473                 |
| 電子記録債権    | 5,592                  | 8,325                  |
| 商品及び製品    | 4,429                  | 5,694                  |
| 仕掛品       | 1,085                  | 1,263                  |
| 原材料及び貯蔵品  | 4,251                  | 4,611                  |
| 販売用不動産    | 196                    | 206                    |
| その他       | 543                    | 1,292                  |
| 貸倒引当金     | △0                     | △0                     |
| 固定資産      | 38,910                 | 39,594                 |
| 有形固定資産    | 28,505                 | 28,970                 |
| 建物及び構築物   | 12,736                 | 11,981                 |
| 機械装置及び運搬具 | 8,591                  | 7,415                  |
| 土地        | 5,795                  | 6,276                  |
| 建設仮勘定     | 885                    | 2,868                  |
| その他       | 495                    | 428                    |
| 無形固定資産    | 720                    | 642                    |
| 投資その他の資産  | 9,684                  | 9,981                  |
| 投資有価証券    | 8,696                  | 9,141                  |
| 繰延税金資産    | 389                    | 234                    |
| その他       | 597                    | 605                    |
| 貸倒引当金     | △0                     | —                      |
| 資産合計      | 85,869                 | 90,234                 |

| 科 目           | 102期末<br>2021年12月31日現在 | 103期末<br>2022年12月31日現在 |
|---------------|------------------------|------------------------|
| 負債の部          |                        |                        |
| 流動負債          | 27,971                 | 29,509                 |
| 支払手形及び買掛金     | 16,236                 | 18,213                 |
| 短期借入金         | 1,914                  | 1,549                  |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 570                    | 483                    |
| 未払金           | 3,959                  | 4,306                  |
| 未払法人税等        | 1,068                  | 797                    |
| その他           | 4,221                  | 4,159                  |
| 固定負債          | 5,374                  | 5,133                  |
| 長期借入金         | 827                    | 343                    |
| 繰延税金負債        | 0                      | 0                      |
| 退職給付に係る負債     | 3,632                  | 3,968                  |
| その他           | 914                    | 821                    |
| 負債合計          | 33,345                 | 34,643                 |
| 純資産の部         |                        |                        |
| 株主資本          | 48,989                 | 51,956                 |
| 資本金           | 8,619                  | 8,619                  |
| 資本剰余金         | 9,070                  | 9,071                  |
| 利益剰余金         | 32,140                 | 35,094                 |
| 自己株式          | △841                   | △829                   |
| その他の包括利益累計額   | 3,512                  | 3,613                  |
| その他有価証券評価差額金  | 3,237                  | 3,507                  |
| 為替換算調整勘定      | 202                    | 220                    |
| 退職給付に係る調整累計額  | 72                     | △114                   |
| 非支配株主持分       | 22                     | 20                     |
| 純資産合計         | 52,524                 | 55,591                 |
| 負債純資産合計       | 85,869                 | 90,234                 |

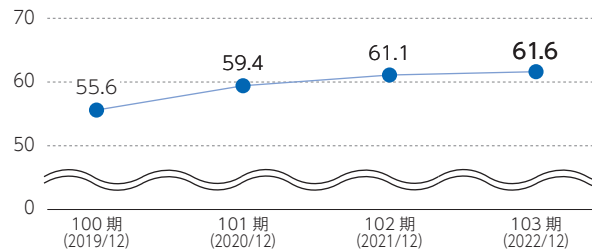
実質借入金の推移

(単位: 百万円)



自己資本比率の推移

(%)



連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

| 科 目                                     | 102期<br>2021年 1 月 1 日から<br>2021年12月31日まで | 103期<br>2022年 1 月 1 日から<br>2022年12月31日まで |
|-----------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|
| 売上高                                     | 88,420                                   | 77,260                                   |
| 売上原価                                    | 73,912                                   | 63,944                                   |
| 売上総利益                                   | 14,508                                   | 13,316                                   |
| 販売費及び一般管理費                              | 9,384                                    | 9,544                                    |
| 営業利益                                    | 5,123                                    | 3,771                                    |
| 営業外収益                                   | 548                                      | 576                                      |
| 受取利息                                    | 0                                        | 7                                        |
| 受取配当金                                   | 206                                      | 294                                      |
| 為替差益                                    | 65                                       | 103                                      |
| 助成金収入                                   | 141                                      | 27                                       |
| 雑収入                                     | 134                                      | 143                                      |
| 営業外費用                                   | 140                                      | 73                                       |
| 支払利息                                    | 84                                       | 21                                       |
| 支払手数料                                   | 25                                       | 29                                       |
| 雑損失                                     | 30                                       | 22                                       |
| 経常利益                                    | 5,531                                    | 4,275                                    |
| 特別利益                                    | 348                                      | 1,542                                    |
| 固定資産売却益                                 | 334                                      | 1,542                                    |
| 投資有価証券売却益                               | 13                                       | —                                        |
| 特別損失                                    | 943                                      | 539                                      |
| 固定資産除売却損                                | 173                                      | 108                                      |
| 減損損失                                    | 750                                      | 429                                      |
| 投資有価証券売却損                               | 18                                       | —                                        |
| 特別退職金                                   | 0                                        | 1                                        |
| 税金等調整前当期純利益                             | 4,937                                    | 5,278                                    |
| 法人税、住民税及び事業税                            | 1,598                                    | 1,406                                    |
| 法人税等調整額                                 | △78                                      | 85                                       |
| 法人税等合計                                  | 1,519                                    | 1,492                                    |
| 当期純利益                                   | 3,417                                    | 3,785                                    |
| 非支配株主に帰属する当期純利益又は<br>非支配株主に帰属する当期純損失(△) | 0                                        | △2                                       |
| 親会社株主に帰属する当期純利益                         | 3,417                                    | 3,788                                    |

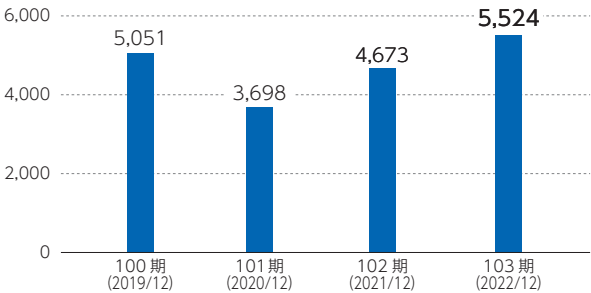
連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

| 科 目                     | 102期<br>2021年 1 月 1 日から<br>2021年12月31日まで | 103期<br>2022年 1 月 1 日から<br>2022年12月31日まで |
|-------------------------|------------------------------------------|------------------------------------------|
| 営業活動による<br>キャッシュ・フロー    | 6,345                                    | 3,702                                    |
| 投資活動による<br>キャッシュ・フロー    | △2,763                                   | △3,310                                   |
| 財務活動による<br>キャッシュ・フロー    | △3,041                                   | △1,773                                   |
| 現金及び現金同等物に係る<br>換算差額    | 44                                       | 63                                       |
| 現金及び現金同等物の<br>増減額(△は減少) | 586                                      | △1,317                                   |
| 現金及び現金同等物の<br>期首残高      | 9,179                                    | 9,765                                    |
| 現金及び現金同等物の<br>期末残高      | 9,765                                    | 8,448                                    |

設備投資(工事ベース)の推移

(単位：百万円)



※キャッシュ・フロー計算書は支払ベースで記載するのに対し、  
本グラフは工事ベースで表示しております。

※記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。  
※2022年は「収益認識に関する会計基準」を適用した数値です。

## グループ会社新社長あいさつ



株式会社埼玉オークラ

おおくま としゆき  
大熊 年幸

『一生懸命だと知恵が出る。中途半端だと愚痴が出る。いい加減だと言いつける。』この言葉は戦国武将の武田信玄が残したとされており、私が大切にしている言葉です。

2019年の設立時に赤字体質だった埼玉オークラは、以後4年間、八十前社長のもと従業員が一丸となって業績向上に取り組み、利益体質へと生まれ変わりました。その後を任されました私の使命は、引き続き当社を『関東市場で存在感を発揮できる企業』へと成長させることであります。

SDGsやサステナビリティが重要視される現在、様々な分野に脱プラスチックの波が広がり、事業環境は決して良いとは言えません。しかしながら、このような状況だからこそ新たなビジネスの可能性も生まれてきます。変化する顧客ニーズを的確に捉え、大手需要家との取組みに必要な技術・品質に磨きをかけて、この荒波を越えていけるよう、『一生懸命』取り組んでまいりますので、ご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



株式会社オークラパック香川

みしま ようすけ  
三島 洋祐

当社は1995年に大倉工業のフィルム製品の二次加工請負を目的に発足し、1999年に第四事業所・第五事業所を設立しました。当社の二次加工が、お客様にお届けする大倉工業フィルム製品の最終形態であることから、発足以来、従業員一人ひとりが重要な責務であると認識し、自信と誇りを持って取り組んでまいりました。

当社は現在「自分で考え行動し、お客様から信頼されるものづくりを実行していく企業集団」を目指し、日々チャレンジを続けています。現場に潜在化した問題を全員で解決し、従業員一人ひとりが主体的に「改善」する組織を目標としています。

私自身も「ものづくりは人づくりである」をモットーにこれまでチャレンジしてきました。飛躍と向上の卯年である本年に当社の社長に就任し、重責を担うこととなりましたが、従業員とともに何事に対しても情熱と執念をもって取り組み、最後まで諦めずにやり遂げる所存です。今後とも皆様のご指導ならびにご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 地域社会への貢献

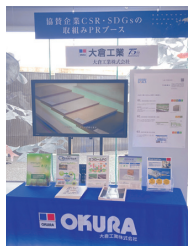
当社グループは、事業を通じての社会貢献を目指す一方で、様々な形で地域貢献活動に取り組んでいます。今回はその一端として協賛・貢献や、地域イベント等に当社従業員がボランティアとして参加している例をご紹介します。

### ■ 瀬戸内国際芸術祭2022

2022年4月より3会期にわたり105日間開催された瀬戸内国際芸術祭2022が、11月6日に無事、閉幕しました。当社は香川県に本社を置く企業としてこの芸術祭を支援しており、多様な芸術文化活動や地域社会の活性化に貢献しています。会期中には、協賛企業紹介として、特設サイトや高松港旅客ターミナルビル1階総合案内所横に設置された「CSR・SDGsの取組みPRブース」にて、当社のサステナビリティの取組みや製品を紹介しました。

また、瀬戸内国際芸術祭には「こえび隊」と呼ばれるボランティアサポーター制度があり、当社もその中の「企業・団体ボランティアサポーター」として従業員がボランティアに参加し、作品展示の受付を行いました。今回参加した従業員は全員はじめて芸術祭ボランティアに参加しましたが、分かりやすいマニュアルや実行委員会スタッフのサポートもあり、ボランティア自体を楽しめました。

3年に一度の開催で次回が待ち遠しいですが、次回開催時は国内だけでなく海外の方も大勢来ることが予想されるため、当社としても地域の活性化に一層貢献するとともに、香川から世界に向けて当社の事業を発信できるよう、まい進していまいります。



### ■ 第75回香川丸亀国際ハーフマラソン

香川丸亀国際ハーフマラソンが2023年2月4日と5日に3年ぶりに開催され、当社も協賛及びボランティアとして貢献いたしました。大会1日目の4日に行われた小学生駅伝や3kmコースに使用されるビブス（ゼッケン）には、当社のロゴマークと社名ロゴが掲載されました。また当社従業員が、4日に参加賞配布の受付や、5日は給水所のスタッフとして参加しました。



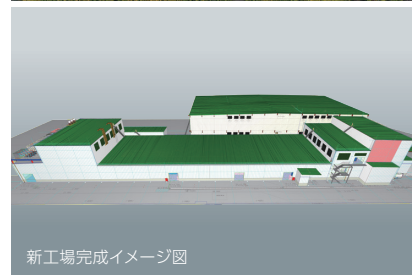
## 新規材料事業部の新工場を建設

テレビ向けなどの大型液晶ディスプレイ市場は、中国パネルメーカーが10.5世代ラインを相次ぎ増強したことで、大型パネルの生産効率は飛躍的に向上すると共に低価格化が進み、平均サイズは年々拡大を続けています。

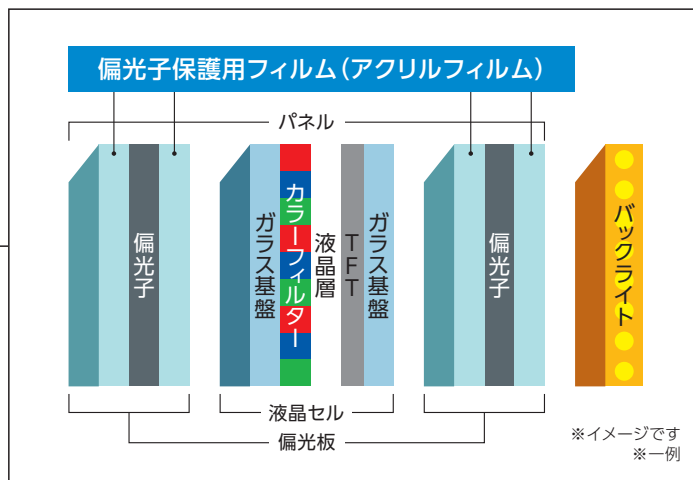
大画面化に伴い、各部材はより厳格な寸法安定性が要求されており、偏光子保護用フィルムについても、TACフィルムから、低吸湿、高耐熱で寸法安定性が優れるアクリルフィルムなどへの置換えが進んでいます。

新規材料事業部は、偏光子保護用アクリルフィルムを上市していますが、今般の需要拡大に応じるため、約60億円を投じ生産能力を増強いたします。アクリルフィルムの主力工場である新規材料事業部G棟(香川県まんのう町)の南側に新工場(名称:H棟)を建設し、これまで培った生産技術をベースに、最大2,600mm幅の広幅製造装置の新設を進めています。今回の増強により生産能力は、現行の約2倍となります。新工場は、今秋竣工し2024年初めに量産開始の予定です。

なお、H棟は、増設スペースを設けており、今後の需要動向次第で速やかに更なる増強を行い、世界シェア10%以上の獲得を目指してまいります。



## 液晶ディスプレイの断面 (TV駆動方式IPS用途例)



## 丸亀にぎわいプロジェクト始動

人口減少や少子高齢化が進む四国では、地域経済の縮小や衰退という課題に直面しています。そこで、四国の活性化に向けた取組みをより効果的なものとするために、自発的な有志の集まりとして、四国旅客鉄道(株)、日本郵便(株)四国支社、四国電力(株)が共同代表となって「四国家サポーターズクラブ」が設立されました。2022年から当社も同クラブに賛同し、地域活性化に向けた取組みに励んでいます。

また同クラブ内に、丸亀市に拠点を置く企業が多数集ったこともあり、企業が市や大学と協力して丸亀市街地の活性化を目指す「丸亀にぎわいプロジェクト」を市公認プロジェクトとして始動させました。このプロジェクトは2022年より3年間続けられる予定で、当社も幹事会社として参加しています。

初年度である2022年は、お城をイメージしたオリジナルポスト「丸亀お城ポスト」をJR丸亀駅前に設置してお披露目式を開いたり、子ども達が楽しくお仕事を学べる体験イベント「ワクワク体験Kids王国in丸亀」を開催したりと、積極的に活動いたしました。

これからも当社グループは他企業や市、大学とも協力しながら地域活性化に向け、まい進してまいります。



## ショールームをリニューアル



本社第一事務所1階にあるショールームをリニューアルいたしました。従来のショールームは、製品の展示と各事業の歴史や代表的な製品をパネルで紹介するのみでしたが、リニューアル後は、製品展示用の棚と展示パネルを一新したことに加え、当社のPR動画やサステナビリティに関する取組み動画を放映するデジタルサイネージを設置しました。

また、元々の製品展示コーナーは光の入りにくいエリアにありましたが、新しい展示コーナーは南側に設置したため、自然光に照らされた明るい空間になりました。それぞれの事業部の特色を活かした展示をしており、どのような分野の製品を扱っているのか一目で分かるようになっていきます。本社にお越しの際は、ぜひご覧ください。

# 会社情報 / 株式情報

## 会社概要 (2022年12月31日現在)

社 名 大倉工業株式会社  
設 立 1947年7月11日  
資 本 金 8,619,616,071円

### 業務内容

- ・各種ポリエチレン製品及びポリプロピレン製品の製造販売
- ・光学機能性フィルム等の製造販売
- ・パーティクルボード及び加工ボード等、加工合板の製造販売、木材加工事業と宅地造成及び建物建築事業

## 役員 (2023年3月23日現在)

|              |                   |
|--------------|-------------------|
| 代表取締役会長      | 高 濱 和 則           |
| 代表取締役社長執行役員  | 神 田 中 祥 友         |
| 取締役常務執行役員    | 取 締 役 常 務 執 行 役 員 |
| 取締役執行役員      | 福 田 英 司           |
| 取締役執行役員      | 植 原 智 生           |
| ※取締役(監査等委員)  | 北 田 隆 司           |
| 取締役(常勤監査等委員) | 長 尾 誠 司           |
| ※取締役(監査等委員)  | 馬 場 俊 夫           |
| ※取締役(監査等委員)  | 飯 島 奈 絵           |
| ※取締役(監査等委員)  | 渡 邊 洋 一           |
| ※取締役(監査等委員)  | 吉 野 泰 雄           |

※社外取締役

## 株主メモ

|             |                                                                                                            |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 決 算 期       | 毎年12月31日                                                                                                   |
| 定 時 株 主 総 会 | 毎年3月                                                                                                       |
| 株主確定基準日     | 定時株主総会 12月31日(その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)<br>剰余金の配当 期末配当 12月31日 中間配当を行う場合 6月30日                             |
| 株主名簿管理人     | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社                                                                             |
| 同事務取扱場所     | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部                                                                        |
| 郵便物送付先      | 〒168-0063<br>東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部                                                            |
| (電話照会先)     | 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00 (土日休日を除く)<br>取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。               |
| 公 告 の 方 法   | 電子公告とし、当社ホームページ(https://www.okr-ind.co.jp)に掲載いたします。ただし電子公告によることができない事故やその他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 |
| 上場証券取引所     | 東京証券取引所 プライム市場                                                                                             |

## 株式の状況 (2022年12月31日現在)

発 行 可 能 株 式 総 数 28,021,600株  
発 行 済 株 式 の 総 数 12,414,870株  
株 主 数 15,554名

## 大株主(上位10位) (2022年12月31日現在)

| 株主名                     | 持株数   | 持株比率  |
|-------------------------|-------|-------|
| 住友化学株式会社                | 963千株 | 8.07% |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 799千株 | 6.70% |
| オークラ共栄会                 | 589千株 | 4.94% |
| 株式会社中国銀行                | 582千株 | 4.88% |
| 株式会社百十四銀行               | 384千株 | 3.22% |
| 日本生命保険相互会社              | 375千株 | 3.14% |
| 住友林業株式会社                | 315千株 | 2.65% |
| 三井住友海上火災保険株式会社          | 271千株 | 2.28% |
| 大倉工業従業員持株会              | 255千株 | 2.14% |
| 株式会社ヤクルト本社              | 251千株 | 2.11% |

(注)当社は自己株式478,949株を所有しておりますが、上記大株主から除いております。  
また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### 住所変更、単元未満株式の 買取等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設された株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

### 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

夢がある。技術がある。**未来**ができる。



# 大倉工業株式会社

本社/〒763-8508 香川県丸亀市中津町1515番地  
TEL 0877-56-1111